

平成18年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

1 一般事項

(1) 理事会の開催

第15回理事会

- ・開催年月日 平成18年6月12日（月）
- ・開催場所 兵庫県公館第2会議室
- ・議案等
 - 議案第1号 平成17年度事業報告に関する件
 - 議案第2号 平成17年度収支決算報告に関する件
 - 議案第3号 評議員の補欠選任に関する件
 - 報告第1号 第7回エメックス会議の開催結果概要について

第16回理事会

- ・開催年月日 平成19年3月27日（火）
- ・開催場所 兵庫県公館第2会議室
- ・議案等
 - 議案第1号 平成18年度事業計画書の変更に関する件
 - 議案第2号 平成18年度収支予算書の変更に関する件
 - 議案第3号 平成19年度事業計画（案）に関する件
 - 議案第4号 平成19年度収支予算（案）に関する件
 - 議案第5号 評議員の補欠選任に関する件
 - 議案第6号 財団法人国際エメックスセンター就業規程等の一部改正に関する件
 - 報告第1号 第8回エメックス会議の開催方針について
 - 報告第2号 公益法人改革の動向について

(2) 評議員会の開催

第14回評議員会

- ・開催年月日 平成18年5月1日（月）
- ・開催場所 ラッセホール5階コスモス（神戸市内）
- ・議案等
 - 議案第1号 監事の補欠選任に関する件

第15回評議員会

- ・開催年月日 平成18年6月20日（火）
- ・開催場所 ラッセホール5階サンフラワー（神戸市内）
- ・議案等
 - 議案第1号 平成17年度事業報告に関する件
 - 議案第2号 平成17年度収支決算報告に関する件
 - 議案第3号 会長の選任に関する件
 - 報告第1号 第7回エメックス会議の開催結果概要について

第16回評議員会

- ・開催年月日 平成19年3月27日(火)
- ・開催場所 兵庫県公館第2会議室
- ・議案等
 - 議案第1号 平成18年度事業計画書の変更に関する件
 - 議案第2号 平成18年度収支予算書の変更に関する件
 - 議案第3号 平成19年度事業計画(案)に関する件
 - 議案第4号 平成19年度収支予算(案)に関する件
 - 議案第5号 理事の補欠選任に関する件
 - 議案第6号 監事の補欠選任に関する件
 - 報告第1号 第8回エメックス会議の開催方針について
 - 報告第2号 公益法人改革の動向について

(3)科学・政策委員会の開催

第8回科学・政策委員会

- ・開催年月日 平成18年(2006年)5月8日(月)
- ・開催場所 フランス・カーン市
- ・議題
 - 第7回EMEC S会議(EMEC S7)
 - 第8回EMEC S会議(EMEC S8)
 - 今後のエメックス活動について

第9回科学・政策委員会

- ・開催年月日 平成19年(2007年)2月15日(木)
- ・開催場所 ひょうご国際プラザ
- ・議題
 - 第8回EMEC S会議(EMEC S8)
 - 第9回EMEC S会議
 - 科学・政策委員会委員の委員とマネジメント(任期末までの就任意向の確認)
 - 今後のエメックス活動について

2 事業の実施

(1)閉鎖性海域環境保全推進事業

湾奥部における環境創造方策に関する調査研究

大阪湾の湾奥部は、古くから生産活動等の用に供するために、海面の埋立等の開発が様々に進められ、水質や底質の悪化、生物の生息環境の悪化等の環境変化が生じてきた。湾奥部の環境の再生をめざし、平成13年度に尼崎港に設置した人工干潟、石積堤を用いた閉鎖性干潟、エコシステム護岸及び浮体式藻場の実証試験施設を研究者等との共同研究の場として活用するとともに、閉鎖性干潟の修理工事等を行った。

また、これらの施設を活用し、社団法人日本鉄鋼連盟等が実施している「鉄鋼スラグ水と固化体による直立護岸の環境修復技術に関する尼崎港域での実証研究」に共同研究者として昨年度に引き続き参加した。

自然を活用した水質改善方策検討調査[瀬戸内海再生事業]（兵庫県委託事業）

尼崎港に設置している浮体式藻場等でのワカメやアオサの増殖による水質浄化やそのバイオマスの活用としてのメタン発酵技術等について実証的な調査研究を大阪府立大学、神戸大学及び徳島大学と共同研究を行った。

共同研究者	研究テーマ及び主な成果
大阪府立大学 (大塚耕司助教授)	海産生物のバイオマス利用に関する研究（ガス化実験及び醗酵残渣利用方法の検討）
神戸大学 (川井浩史教授) (永田進一教授)	植物バイオマスの回収技術確立及び有効利用検討（ワカメの堆肥化及び耐塩性バクテリアの探索）
徳島大学 (上月康則助教授)	動物性バイオマスの回収技術確立

御前浜水環境再生事業（兵庫県阪神南県民局委託事業）

兵庫県西宮市御前浜は、大阪湾の阪神間における数少ない砂浜であり、ウォータースポーツや散策など市民の憩いの場となっているが、水質・底質などの環境悪化が生じている。県民の参画と協働による水環境再生の具体的な方策を推進するため、平成17年度に設置された実証実験施設（浅場）について、長期モニタリングを実施し評価を行うとともに、市民参加による生物調査やアサリの飼育実験の実施やフォーラムの開催等の啓発事業を行った。また、阪神南県民局が設置し、学識経験者や市民団体が参加する「御前浜水環境再生懇話会」への資料作成やホームページの開設などを行った。

ア. 長期モニタリング（四季調査）

調査項目：底質（ヘドロ堆積状況、粒度組成、酸化還元電位等）、水質（水温、溶存酸素等）、底生生物、付着生物、形状測量（夏季、冬季のみ）

実施時期：平成18年5月（春季調査）、8月（夏季調査）、11月（秋季調査）、平成19年2月（冬季調査）

イ. 御前浜ワークショップ「みんなの浜辺調査」

第1回	<p><開催日> 平成18年9月3日（日）</p> <p><開催場所> 西宮浜産業交流会館</p> <p><指導> 上月康則（徳島大学助教授） 中西敬（大阪市立大学非常勤講師）</p> <p><参加人数> 72名</p> <p><実施内容> 御前浜クイズ、御前浜生物調査、アサリの海水浄化実験、アサリの生育実験、ふりかえり</p>
-----	---

第2回	<開催日> 平成18年9月23日(土) <開催場所> 兵庫県立海洋体育館(芦屋市内) <指 導> 川井浩史(神戸大学教授) <参加人数> 20名 <実施内容> 御前浜の海域調査、水質調査、海藻と海の環境についての講義、第1回アサリの生育実験、ふりかえり
第3回	<開催日> 平成18年11月3日(金) <開催場所> 兵庫県立海洋体育館(芦屋市内) <指 導> 上月康則(徳島大学助教授) 中西敬(大阪市立大学非常勤講師) <参加人数> 40名 <実施内容> 第1回アサリの生育実験の結果、御前浜生物調査、第2回アサリの生育実験、ふりかえり

ウ. 御前浜水環境再生市民フォーラム「とりくもう水環境の再生」

<開催日> 平成19年3月11日(日) <開催場所> 西宮浜産業交流会館 <講 師> 上月康則(徳島大学助教授)、中西敬(大阪市立大学非常勤講師) <参加人数> 40名 <概 要> 講演「大阪湾の環境と御前浜について」 講師 中西敬(大阪市立大学非常勤講師) 御前浜ビンゴ! 講演「モニタリング結果の報告と今後の予定」 講師 上月康則(徳島大学助教授) 浅場の見学
--

エ. 御前浜水環境再生懇話会の開催(兵庫県阪神南県民局設置)

第1回	<開催日> 平成18年9月26日(火) <開催場所> 兵庫県立海洋体育館(芦屋市内) <参加者数> 24名 <実施内容> モニタリング調査結果等について、ホームページの開設状況について、その他
第2回	<開催日> 平成19年2月22日(木) <開催場所> 兵庫県立海洋体育館(芦屋市内) <参加者数> 24名 <実施内容> 御前浜の変化について、啓発事業について、その他

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)の開催

環境は全ての人のものであり、将来の世代が恩恵を受けられるように、私達、大人が環境を持続的に利用し、保全する責任を負うべきであるという趣旨のもとに、平成18年(2006年)5月フランス・カーン市において、第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)をEC SA(河口域・沿岸科学学会)とジョイントで開催し、25カ国から約350人が参加した。

ア. 開催期間：平成18年(2006年)5月9日(火)～12日(金)

イ. 開催地：フランス バス・ノルマンディー地域圏 カルバドス県 カーン市
ウ. 会場：カーン・エキスポ・コンgresセンター ほか

エ. メインテーマ：閉鎖性海域の持続可能な共同発展～私達の共有責任～

オ. 主催団体等

<主催>	GEMEL(フランス河口・沿岸域環境研究学会) EC SA(河口域・沿岸科学学会) 財団法人国際エメックスセンター
<共催>	カーン大学、バス・ノルマンディー地域圏、カルバドス県、 カーン市、仏海洋学会、仏国立海洋研究所、ノルマンディー・ セヌ水道事業団、カーン都市圏共同体、アジア太平洋地球変 動研究ネットワーク
<支援>	国連環境計画(UNEP)、ユネスコ(UNESCO)、 経済協力開発機構(OECD)、 MEDCOAST(地中海沿岸国際会議)
<事務局>	GEREL(河口域沿岸資源環境保全協会)

カ. 開会式

<開会挨拶>	EMEC S7/EC SA40国際組織委員長 カーン大学学長 ニコル・ル・ケルレ
<歓迎挨拶>	フランス政府 エコロジー・持続可能開発省大臣代理 ユーク・ブーズィジュ
<記念挨拶>	国際エメックスセンター理事長 井戸敏三
<基調講演>	「沿岸域への気候変動の影響と可能な対応」 国際エメックスセンター会長 茅 陽一 「共有する責任：沿岸域管理のためのコミュニティー活性化手法として の環境プロジェクトへの参加」 英ニューキャッスル大学教授 スチュアート・エバンス

キ. 全体会議～欧州沿岸海域セッション～

「北海／バルト海」	英ハル大学教授 マイク エリオット
「地中海」	MEDCOAST会長 エルダール・オーザン
「イギリス海峡」	仏リール大学教授 ジャン クロード デュバン

ク. 技術セッション(発表95件)

「沿岸海洋科学における近年の進歩」
「生態系の特質：コンセプトとケーススタディ」

「沿岸域管理における新しいコンセプトと新たな経験」
「協働と地域社会からの参画ー環境問題への継続的な取り組みと啓蒙」
「ネットワークと21世紀における教育ーコミュニケーションの挑戦」

ケ. 特別セッション

<アジア太平洋沿岸セッション>
<青少年環境教育交流セッション>
<UOF (仏海洋科学者連合) 若手研究者フォーラム>

コ. ポスター発表 (28件)

サ. 閉会セッション

<総括ラウンドテーブル>
<ポスター賞等表彰式>
<会議宣言>

カーン宣言 (要旨)

沿岸海域ならびに集水域とそこに住む人々は、「共存活動の圏域」を形成しており、切り離すことはできない。私達の将来は、共存活動の圏域の将来にかかっている。

将来に向けて、①科学者はその知識を政策立案者や市民に伝達すること、②環境教育専門家やNGOが知識の翻訳者としての役割を担い続けること、③地元のリーダーや市民が地元に基づいた活動を継承・発展させること。④青少年環境教育交流を支持すること、⑤アフリカ、豪州、南米からもEMEC Sに参加すること、を望みたい。

青少年環境教育交流セッション宣言 (要旨)

現在、世界各地で、青少年が意義ある継続的な野外活動経験に参加する機会が失われつつある。学生も教師も保護、修復、保全すべき生態系システムについて、直接得られた知識を持たずに、環境教育プログラムに関わっている実状を心配している。

環境教育は、私達が自然界の一部分であることを理解するための、開かれた扉である。直接の経験がなければ、熱帯雨林の伐採や地球温暖化といった問題に対策を立てる力を得られない。

地元の環境を体験するような教育プログラムを進める手助けをしてほしい。

<次回会議開催地発表>

華東師範大学学長代理・教授 陳 中原

<謝辞>

国際エメックスセンター科学・政策委員会委員長 熊本信夫

シ. 報告書等の作成

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMEC S 7) の開催後、さらなる閉鎖性 海域の環境の保全と適正な利用の推進を図るため、EMEC S 7の開催結果や特別セッションに係る報告書等を作成し、その成果を広く内外に発信した。

印刷部数：日本語版 1, 000部

英語版 1, 000部

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S 8)の開催準備

平成20年(2008年)10月28日～31日に第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S 8)を中国上海市で開催するため、陳中原・華東師範大学教授を中心に準備を進めている。そのため、中国自然科学基金委員会の陳 宣瑜 総裁(主任)にEMEC S 8国際組織委員会の名誉委員長への就任を依頼するとともに、北京において中国関係機関との協議を行うなど、開催準備のための各種作業を行った。

アジア太平洋沿岸域環境白書の発行

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S 2001;平成13年11月、神戸)のアジアフォーラムで提案されたアジア沿岸域の総合アセスメントの実現に向けて、運営委員会(委員長:三村信男・茨城大学教授)を設置し「アジア太平洋沿岸域環境白書」の作成を進めてきた。本書は、英文で出版し、その成果を世界に発信することになっている。

出版に向けて各国の研究者等に原稿の執筆を依頼していたが、原稿が揃ったので現在出版社において原稿の内容を査読中である。

タイトル名: **Asian-Pacific Coasts and their Management:
States of Environment**

出版社: **Springer** 社

出版予定時期:平成19年12月頃

エメックス国際セミナーの開催

東アジアにおいて急速な経済成長に伴う沿岸海域の富栄養化等の海域環境の悪化並びに水産資源やエネルギー資源を始めとする海洋資源の利用が大きな課題となっているため、東アジア、特に中国、韓国、日本の沿岸域統合管理に焦点を当てた特別講演並びに海外の閉鎖性海域での現状・対策・将来動向等最新の情報を交えたパネルディスカッションからなるエメックス国際セミナーを開催した。

<開催月日> 平成19年(2007年)2月16日(金)

<実施場所> 独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター(JICA兵庫)

<参加人員> 約90人

<テーマ> 東アジア海洋・沿岸域の現状と将来について

<特別講演>

「国際法に基づく世界の平和と安全保障の確保

～東アジア海洋資源利用の政治的問題の解決～」

講 師: ジョージア大学名誉教授、ジョージワシントン大学客員教授

国際基督教大学(ICU)大学院教授

トーマス・ショウエンバウム

<パネルディスカッション>

テーマ：ICM（沿岸域統合管理）の構築に向けて

座長：慶応大学教授 渡辺正孝

パネリスト：中国・華東師範大学教授 陳 中原

韓国海洋研究院古海洋環境研究所所長 李 熙一

瀬戸内海研究会議会長・広島大学名誉教授 松田 治

MEDCOAST 会長・トルコ・ムーラ大学工学部長

エルダール・オーザン

(2) 情報収集整備活用事業

閉鎖性海域環境情報システムの構築（環境省水・大気環境局委託事業）

本事業は、世界の主な閉鎖性海域における水質等の環境データ、社会経済データ、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果等の情報を研究者、行政関係者等が活用できるシステムの構築を図ることを目的としたものである。平成13年度に内容の検討を行い、平成14年度にクリアリングハウス方式のシステムを構築し運用を開始した。このシステムの改良や情報を追加するため平成14年度から毎年継続して閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会を設置して学識者の意見を踏まえ作業を実施してきたが、平成18年度は整備の最終年度として、5海域の情報を追加し、世界の閉鎖性海域21海域の情報を検索できるように整備を行った。

ア. 情報システムの名称及びアドレス

"Clearing House for Enclosed Coastal Seas Information"

URL <http://www.ecsdb.emecs.or.jp/main.html>

イ. 平成18年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会

・委員構成

座長	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
委員	高山 進	三重大学生物資源学部教授
委員	今田 長英	財団法人地球環境戦略研究機構 (IGES) 関西研究センター 副所長
委員	信岡 尚道	茨城大学工学部都市システム工学科講師
委員	橋詰 博樹	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長

・検討委員会の開催

第1回	<開催日>	平成19年1月31日（水）
	<場所>	航空会館 B102会議室（東京都港区）
	<議題>	委員の構成と委員長の選出、 閉鎖性海域環境情報システム構築の推進方法について、 平成17年度の閉鎖性海域環境情報システムの利用状況について 他

第 2 回	<開催日> 平成19年2月20日(火) <場 所> 航空会館 B102会議室(東京都港区) <議 題> 閉鎖性海域環境情報システムの整備結果について、 平成19年度以降の閉鎖性海域環境情報システムの維持管理について 他
-------	--

・ 情報整備海域

平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
チェサピーク湾 バルト海 瀬戸内海 タイ湾	北海 黒海 地中海 渤海	メキシコ湾 サンフランシスコ湾 ペルシャ湾 黄海	紅海 ハドソン湾 ヒュージェット湾 カリブ海	カリフォルニア湾 東シ海 南シ海 日本海 ベンガル湾

情報収集・提供システムの運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集し、加工するとともに、情報の提供や交流を行うため、インターネットホームページ及び掲示板システム「誰でも参加ー海のネット会議」の運用、管理を行った。

The screenshot shows the EMECS website with a navigation menu and a callout box. The callout box lists the following database contents:

- データベース
- 日本の閉鎖性海域
- 世界閉鎖性海域環境ガイドブック(日、英)
- 日本の閉鎖性海域の環境保全2005(CD-ROM)
- 日本の閉鎖性海域の環境保全2003(CD-ROM)
- 日本の閉鎖性海域の環境保全2001(CD-ROM)
- 海外の環境回復・創造事例
- 瀬戸内海の環境保全資料集(H9、英)
- Enclosed Coastal Seas Database
- その他

The website interface includes a search bar, a navigation menu with buttons for 'New Information', 'EMECS Center Activities', 'EMECS Meeting Information', 'Database', 'Publications', 'Newsletter', 'About EMECS Center', 'Disclosures', 'Link Collection', and 'Sea Net Conference'. A text box on the right states: '国内及び海外の閉鎖性海域に関する情報を掲載しています。' (We are posting information about enclosed coastal seas in Japan and overseas.) Below this are several small images of coastal and marine environments.

エメックスニュースの発行

機関紙「エメックスニュース」は、閉鎖性海域に関する情報交換を促進する目的で、投稿論文、閉鎖性海域環境保全体体の紹介、関連国際会議開催情報等を掲載し発行している。平成18年度は、第7回世界閉鎖性海域環境保全会議の報告を中心に第25号を日本語版および英語版にて発行した。主に、国内外の財団関係者・行政担当者・研究者・事業者等に対して送付した。また、電子メールによるPDF配信も行

った。

- ・エメックスニュース25号
印刷部数：日本語版 5,000部
英語版 4,000部
- ・電子メールによるPDF配信
配信数：約450件

地域担当者によるエメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて人的ネットワーク構築のため、科学・政策委員を関連する国際会議に派遣し、エメックス活動のPR等を行った。

派遣委員：松田治（広島大学名誉教授）

派遣期間：平成18年12月10日～17日（8日間）

派遣先：中国海南省海口市

国際会議：The East Asian Seas Congress 2006

事務局 PEMSEA（東アジア海域海洋環境管理計画）

(3) 普及啓発・人材育成事業

閉鎖性海域の水環境管理技術研修（独立行政法人国際協力機構委託事業）

独立行政法人国際協力機構（JICA）から委託を受け、瀬戸内海を中心とした閉鎖性海域の環境保全と修復の経験を基礎とした閉鎖性海域の環境保全対策についての「閉鎖性海域の水環境管理技術研修」を実施した。

ア. 研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等を対象にし、我が国における水質保全など閉鎖性海域等の環境管理に関する経験とその技術の移転を行うことにより、閉鎖性海域等の環境管理分野における指導的役割を担う人材の育成を目的とした。

イ. 研修期間

平成18年（2006）年8月21日から平成18年10月27日

ウ. 研修リーダー

松田 治（広島大学名誉教授・瀬戸内海研究会議会長）

エ. 主な研修場所

独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター（JICA兵庫）

オ. 研修内容

<講義>

環境管理及び水質保全等に係る基礎理論及び対策

<実習>

水質モニタリング、生物モニタリング、リモートセンシング技術等

<現地見学>

沿岸海域環境に関する研究施設、排水処理施設、環境教育現場等

カ. 研修員

	氏名	国名	性	年齢	所属・職名
1	シュ・イン	中国	女	27	寧波市環境保護監測局 環境監視官
2	サレ・アブドゥライ	コートジボワール	男	31	国立公害防止センター 衛生技師
3	デワ・アユ・マデ・ス リ・アングラエニ	インドネシア	女	35	国立環境保全センター 環境破壊規制担当官
4	アガリブ・ハイカイ・ ベイ	インドネシア	男	40	スカブミ県環境局 沿岸・海域環境保全担当官
5	アリ・スリマン・アル セイフ	サウジアラビア	男	35	都市村落省(中央政府) 環境技師
6	チェンナティー・ソー ボンスイリ	タイ	女	28	海事局(中央政府) 環境官

(参考) 研修生合計 (平成2年度～18年度) 29カ国 116名
〔(社)瀬戸内海環境保全協会の実施分(平成2年度～12年度)を含む〕

「海の環境教育」の実施 (兵庫県阪神南県民局委託事業)

尼崎港に設置している人工干潟・石積堤等の環境修復実証試験施設を活用して、阪神間の小中学生等を対象に、海の機能、浅場の機能や役割、大阪湾・尼崎湾の現状、海の生物等について知る、触れる、考えることができるプログラムによる環境学習を行った。

<実施時期>

平成18年9月～平成19年3月

<実施場所>

尼崎港内の実証試験施設及び武庫川下流浄化センター会議室

<実施回数>

3回

<参加者数>

69名

<主なプログラム内容>

環境教育 DVD 「きれいな海をとりもどそう」

尼崎港内の海水中のプランクトンの顕微鏡観察

二枚貝を使った海水浄化実験

水質測定

人工干潟等で捕獲された生物の観察

ワカメの栽培実験 他

ひょうご環境学校推進事業（兵庫県委託事業）

兵庫県立母と子の島等において、海に親しみ、海のすばらしさを体感し、海の環境保全の重要性について学ぶ体験型環境学習を子どもを対象に実施した。実施にあたっては、大学生等のサポーターを育成しつつ、サポーターとの協働により企画・運営を行った。

また、他の施設等においても体験型環境学習を実施し、これらの施設等のネットワークの形成を図った。

・サポーター研修

<p><対 象>兵庫県立大学生 17名 兵庫県子ども会連合会フロンティア会 7名 <研修日>第1回講習会（5月12日）～第12回講習会（8月19日）等 <場 所>加古川市、姫路市</p>

・学習会の開催

第1回	<p><開催日> 平成18年6月11日（日） <開催場所> 西宮市甲子園浜自然環境センター <テーマ> 見つけよう！ぼくらの浜辺の宝物 <参加人数> 27名 <サポーター> 13名 <実施内容> 参加者が指令書に従って浜辺で宝探しをしながら、不思議や面白いと感じたものを写真に撮り、浜辺の自然の変化や人の暮らしぶりを感じるプログラムを実施した。</p>
第2回	<p><開催日> 平成18年8月21日（月）～8月22日（火） <開催場所> 兵庫県立母と子の島 <テーマ> Go Go 家島探検隊～五感の宝探し <参加人数> 35名 <サポーター> 21名 <実施内容> 参加者が班毎に宝探しをしながら、生物観察、カヌー体験、海水浴等で自然を五感で体験することが出来るように実施した。</p>
第3回	<p><開催日> 平成18年11月5日（日） <開催場所> 相生市内（タウンウォッチング） <テーマ> 環境再発見ウォーク ○○になってみました！ <参加人数> 20名 <サポーター> 13名 <実施内容> 参加者が鳥、雨、ネコ、カニなどの視点になって町の中を見て回った。その結果を、絵に表し個々人の気づきや学びを自分なりに整理し、他の参加者に紹介することで分かち合いを行った。</p>

海の環境学習人材育成事業

これからの海の環境保全を担う人材を育成するため、平成17年度に作成した海の環境学習テキスト「海をもっと知ろう（学習編）」「海について体験しよう（実践編）」「海について考えよう（復習編）」を活用し、海の生き物や自然現象、人為的な影響等について体験的に学び、沿岸域環境の保全や修復について考える海の環境学習を、関係団体等と連携し実施した。

- ・実施時期 平成18年6月～10月
- ・実施場所 尼崎港内の実証試験施設及び武庫川下流浄化センター会議室
- ・実施回数 4回（外2回は、台風接近により中止）
- ・参加者数 118名
- ・主なプログラム内容
 - 環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」
 - 環境学習テキストに基づく講義
 - 実証試験施設の人工干潟での生物採取と観察

環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報の発信のため、環境イベントへのパネル出展等を行った。

- ・「国際フロンティア産業メッセ2006」ひょうご環境ビジネス展
 - 開催年月日 平成18年10月4日（水）～5日（木）
 - 開催場所 神戸国際展示場2号館（神戸市）
- ・「さわやか環境まつり」（ひょうごエコフェスティバル2006）
 - 開催年月日 平成18年10月28日（土）～29日（日）
 - 開催場所 丹波の森公苑（丹波市）